opusdei.org

黙想:復活節第3主 日(C)

黙想のテーマ:「歴史の海に 漕ぎ出す」「イエス、網を打 つよう招く」「復活は、主に 信頼するよう招く」

歴史の海に漕ぎ出す

イエス、網を打つよう招く

復活は、主に信頼するよう招く

不漁の一夜の後、使徒たちは、空っ ぽの網を手に疲労困憊の様子で岸に 舟と網は教会の使命を彷彿させます。ペトロと仲間たちがそうの光にないたちもりの大海にといるため、教歴史の大海にという、常変りに網を打ないませいがに大胆ない言ってもいがにという、中では全ないではいかがにないではないではないでした。 漁の最も漁する必要のある所が湧いたり」。 「団。この海原で疑問が湧いたり 不安になったりしたら、岸でお待ちのイエスを思い出すことが必要そ、す。こうして、主との出会いこそ、人々にもたらすことのできる最大の善であることを自覚します。「多くの人にキリストの光と温かさをもたらすこと以上に満足感を与えてくれるものはありません」[2]。

使徒たちは魚を運んで来て、イエス の足もとに差し出します。此処に、 真の福音盲教のもっとも深い意味を 垣間見ることができます。使徒職の 熱意を実践に移す方法や活動が多々 あるとしても、その最終目的は、い つも人々をイエスとの個人的な出会 いに導くことです。主こそ、教会の 使徒職活動の源泉であり、主人公で あり、目的なのです。これ以外のこ とは全て、重要だと思えるにして も、二義的なことです。私たちの救 霊は、キリストによってのみ実現さ れるからです。使徒言行録が伝えて いるように、これがまさに聖霊降臨 後の使徒たちの振る舞い方でした。 彼らは、主の生涯、死と復活の証人 であることを自覚していたので、イ エスをエルサレム中に広めました (使徒言行録5·27-32参照)。

オプス・デイ属人区長は言います。 「『広大なカテケージス』であるオ プス・デイが、全てキリストを中心

に展開されていることにワクワクし ます。福音に深く入り込む望みを もって、講話やクラス、説教をした り、友だちにキリスト信者の生き方 について話したりするとき、一人ひ とりに対する神の愛についての偉大 なニュースを、より明確に伝えるこ とができます。聖アンブロジウスは 言いました『キリストの水を飲むの です (…)。心をこの水で満たしな さい。あなたの心がいつも潤ってい るためです (…)。いっぱいになる と、他者をも潤すことができま す』して

使徒たちの働きが大漁になったのは、イエスの言葉に従って網を打ったからです。引き上げられないほどになった網に使徒たちはびっくりし、数えると153匹もの大きな魚でいっぱいです。「それほど多くとれたのに、網は破れていなかった」(ヨハネ21・11)。不漁の一夜を過ごして疲労困憊だった弟子たちのこ

の小さなグループは、短時間の後に 忘れられない大漁の喜びを味わいま す。しかし、キリストの言葉は魚を 保証するのではなく、主と共に網を 打つよう招いているのです。いつ がいっぱいになるのかは、また、 見、あまり実りのないような時、い つ神が一緒なのかは、ただ神のみが ご存知です。

岸辺に立つ人がイエスであることを 最初に見ぬいたのは、使徒ヨハイのは、使徒ヨハイのは、使徒ヨハイのは、使徒ヨハイのはで、でいたに最初に気づくアウンをです。と聖ホセマリカとをでいます。といれ、深遠になっていたなけられる。 はいの網を見て、ペトロにといます、「主だ」(ヨハネ21・7)とで、それは自然に表された信仰告いまるの態度に似ていまる。 す。トマスは最初信じませんでしたが、そのことに引きずられずに「わたしの主、わたしの神」(ヨハネ20·28)と叫んだのでした。

私たちも「イエスの愛しておられた あの弟子 | (ヨハネ21・7) の熱意 と、トマスの謙遜に倣って、復活さ れたイエスこそが、私たちの命の主 であることを公言するよう促されま す。希望に満ちて、自己の無分別や 失敗、躓くような問題にも関わら ず、楽天的な態度を失うことはあり ません。重苦しい夜や厳しい仕事で あったとしても、岸には主がお待ち であることを知っています。「イエ スとともにいるなら、わたしたちは 恐れることなく、人生という海を 渡っていけるのです。たとえ何もと れなくても、失望に負けてしまうこ となく、また諦めて『何もできるこ とがない』と言うことなく、渡って いけるのです。個人的な生活で、ま た教会や社会での生活において、行

うことのできる何か美しいもの、勇敢なことが必ずあります」[6]。

この復活節の間、主の力に対する信頼が強まるように、また生活を神に委ねる謙遜が深まるように、主にお願いしましょう。使徒の元后、聖マリアが、あらゆる所に福音の喜びを告げ知らせるために必要な、信頼と元気を新たにかきたててくださるでしょう。

[1] 聖ホセマリア、1962年8月家族の 集まりでのメモ。

[2] 聖ホセマリア、1954年4月16日説 教メモ。

[3] ベネディクト十六世、2005年4月 24日説教。

- [4] フェルナンド・オカリス、2017 年4月5日メッセージ。
- [5] 聖ホセマリア、『神の朋友』266 番。
- [6] フランシスコ、2022年2月6日 お 告げの祈り。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-fukkatsusetsu-shujitsu3c/(2025/11/20)